第５回　総務厚生学教委員会

令和６年４月 25 日（木） ５階　第１委員会室	開 会 ９ 時 ００ 分 閉 会 ９ 時 ３９ 分

午前９時14分　開会

○委員長（柴田幸一郎君）

おはようございます。

少し早いのですが、皆さんお集まりですので、始めさせていただきたいと思います。

先週、地域医療と救急医療の勉強会には、皆さんご苦労様でございました。大変、皆さん充実した勉強になっただろうと思っております。

本日、皆様とお話をしたいことについては、テーマの決定とスケジュールというものになっております。７ページにも及ぶので、紙でも作ってはきました。大丈夫ですね。

それでは、着座にて進めさせていただきますので、お願いいたします。

スケジュールとテーマについては、密接な関係があるので、もう一括にずっと進めさせていただきたいと思っています。

それでは、資料のほうを御覧ください。

資料の黄色いところの前回４回目の意見についてであります。

①、②については、皆さんお話ししたので、いいので、会議後の４月１日までのタイトル等の御意見についてを少し発表させていただきます。

③です。２つあったタイトルをつなげてはどうかという御意見をいただきました。

そして、④です。第９期瑞浪市高齢福祉計画・介護保険計画、これでありますが、これが出ていますし、第２期の瑞浪市教育振興基本計画などの計画書、こういうものが出ているので、こういうものから二、三か所、ピックアップしたらどうかというふうな御意見をいただいておりました。

さて、これらの御意見をいただいて、今回の大テーマは、２つを１つに無理やりつなげたわけではありませんが、安心して住みなれた地域で暮らせ、子どもを産み育てられる瑞浪市という、くっつけた形にしたいと思っております。

そして、その中から、アからキまでの小項目があるのですが、これの中の全部ができれば理想的なんですが、そこまでできるとは思えないので、私の判断で、優先順位１位を赤星、２位を黄色の星、３位を青色の星という形で揃えております。

そうすると、優先順位１位は、ウの学校内教育支援センター整備促進事業とカの高齢福祉・介護などを優先順位にしております。

オのところの健康増進のところには、星がついておりませんが、この高齢福祉と介護福祉には、非常に健康増進と絡み合っているところが多数あるため、オとカは同じというわけではないんですけども、複雑な絡みがあるということで、ある意味、星は赤色のような形で思っていただければな

というふうに思っております。

私のほうの考えとしては、ウとカを中心的に行い、そして第２位として、黄色の星の複式学級と地域防災。その次に、４月から始まる子ども家庭センター、そしてデジタルガバメントというような順という、優先順位をつけさせていただいております。

次のページであります。

令和６年度の基本的なスケジュールであります。

まずは、何と言っても、こういったテーマを作って、そして瑞浪市の現状をまず把握しよう。その次に、現状を把握したら、最新事例などを見に行って、こういうことが瑞浪市ではできるんじゃないかっていうことを皆さんと討議し、４番目に、政策提言ができればと考えております。そして５番目に、市民の皆様にこういったことを行いましたという報告をする。この１ステップ、２ステップ、３ステップ、４ステップ、５ステップができればというふうに、理想で考えております。

現在、私の中で考えている１ステップ、２ステップは、下の表にあるように、４月に１ステップ、５月、６月、７月ぐらいに現在の現状を把握する２ステップ、ちょっと８月に３ステップ、９月に４ステップ、そして１１月に５ステップというような形で進んでいけたらというふうに私は望んでおります。

今のここの１、２ページの中について、何か御質問等や御意見がありましたら、お願いいたします。

いいですか。

それでは、ここの中で、赤星であるウとカについて、皆さんに御報告します。

３ページ目からです。

まずは、ウの学校内教育支援センター整備促進事業です。

この事業においては、物すごく多岐にわたっております。

まずは、その中でも、不登校生徒の社会的自立の取り組みに向けた調査、研究について、中心的に考えていきたいと思っております。

まず、そのために、私の知り得た、私が情報を集めた現状について、皆さんとお話ししたいと思っています。

第２期の瑞浪市教育振興基本計画の中には、瑞浪市の課題というものが６ページにあります。生徒数はどんどん減っていきよるのに、不登校生徒は増加傾向である。表１のように、このような形です。

そして、市民アンケートにおいても、最も課題が大きいとしているのが、いじめ・不登校等の未然防止と早期対策であるということです。

この現状を受けて、目的です。私たちはこういうふうにしたらいいんじゃないかというふうです。

特別な支援を必要とする子どもたちと、そして保護者に対して、教育的ニーズに対応する体制づくりが必要ではないかと考えています。

よって、本委員会は、一人一人の現状に応じた指導・援助の充実（不登校生徒の社会的自立）に

ついて、具体的な活動を勉強していきたいなと考えております。

さて、ここの社会的自立をするためには、まずステップ２の瑞浪市の現状を把握しようと思っています。

誰一人残さないためのＣＯＣＯＬＯプランというものが令和５年に出されました。

それを受けて、教育支援センターを中核とした教育相談や不登校生徒対策、こぶし教室の運営を挙げて、不登校生徒の社会的自立を行っているところであります。

教育委員会事務局長と相談中でありますが、具体的にＣＯＣＯＬＯプランはどんなような活動をしているのか。２つ目に、不登校生徒の社会的自立はどんなようなことをしているのかというような現状を把握したいと思っています。できればですが、現場で指導している教育支援センター員の先生から声を聞けたらなというふうに考えております。

今ウの段階で何か御意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

私の言いたいのは、不登校生徒に対しては、市民アンケートについても、そして基本計画においても、かなり重要視しているということで、それを目的に考えていきたいなというのが私の思いであります。

どうぞ、小木曽委員。

○６番（小木曽光佐子君）

この課題については、市長が連合区で瑞浪市の今後の予算の使い方の中でも、結構、声強くして言われた部分で、子どもが減っているのに不登校は増えていると。

ただ、その子をカバーするためのこぶし教室もありますよというような話もされていましたので、いい課題ではないかと私は思います。

○委員長（柴田幸一郎君）

ありがとうございます。これでステップ２のところで、生の声を聞けたら、もしかすると、最新事例で解決する方法があるかもしれんというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

５番、樋田委員。

○５番（樋田翔太君）

すみません、見させていただきました。瑞浪教育プランとかと重複するのが結構多いかなと思うんですけども、委員長として、対処したいのがどこかなというのがいまいち分からないというところで、不登校になる前の状態があって、不登校になりかけの状態があって、不登校になって、そっからもう学校に通えなくなってみたいな、プロセスがいろいろあるんですけども、不登校になってからの子どもに対する対応でいいですか。

○委員長（柴田幸一郎君）

今の段階では、この教育支援センターのところでは、不登校と不登校になっていない、ちょうど中間的な人、保健室通いのような人たち、そういうような人たちを何とかできないかしらっていうふうに考えています。

それで、不登校になってしまう一歩手前みたいなところですよね。

どうぞ。

○５番（樋田翔太君）

いろいろ対処方法はあると思うんですけども、例えば何か学校に通うのが嫌だなという思いがどっかで最初あって、その後それが積み重なっていって、だからいろんな嫌な要因が増えていって、不登校ぎみになっていって、不登校になってというところだと思うんですけども、僕はどっちかって言うと、最初の状態で手を打っておかないと、なりそうな人を助けるのも大事なことだと思うんだけど、もうそもそもそういう嫌な思いをしている人の声が何かどこかで出てくると言うか、実はこの先生のこういう発言が実は嫌だったよみたいなやつが吸い取れるような、そういう仕組みのほうが、何か先手を打っている感じがして、もう不登校になりそうな子に対するケアは、ある程度できていると言うか、もうやろうとしているので、もうやろうとしているところを見に行って何かするよりも、やろうとしてないところをちゃんとやったほうが効果が高いんじゃないかなと思うんですけど、どう思われますか。

○委員長（柴田幸一郎君）

不登校の子を扱っている、不登校を扱っている教育支援センター員の委員の方から生の声を聞いて、どっちのほうが対応がいいのか。そこで考えながらでもいいんじゃないかなと僕は思いますね。ステップ３に行く方法は、そういうふうに行ってもいいかな。

○５番（樋田翔太君）

分かりました。

○委員長（柴田幸一郎君）

４番、柴田委員。

○４番（柴田増三君）

１つはね、うちの身近な人もそういうあれがあったんやけど、そもそもが不登校になっていく、今、樋田委員がもう言いよったけど、不登校になっちゃった後と言うより、不登校になっていく前の原因がどこにあるかというのも、やっぱりこの今の教育支援センター員の人から生の声を聞くことによって、やっぱりその辺、その対策そのものより、原因についてのことも恐らく調査はしてみえるだろうと想定はしとるんやけど、その辺のとこもやっぱり的確に考えていかないと、学校の中の環境を変えていかない限り、なかなかそういう不登校の子が生まれんようになるという環境というのは難しいかなというのはね、やっぱり聞くということは、今の委員長のお話でいいかなと思いますけど、その段階の中からいろいろとやっぱり探ってくると言うかな。

○委員長（柴田幸一郎君）

そうですね、ありがとうございます。

熊谷委員。

○３番（熊谷隆男君）

今もうこれの話になってきよるけどもさ、自分がやろうとするのは、まず調査をして、こぶし教室を見、先生の話を聞き、これから今の話で議論を重ねる部分のところを先もって、想像を持って

こういうことが原因であるやろうと思うからっていう話をここでしても、こら夢のような話で、おれはあまり意味がないと思うんやねんな。やっぱりこう１つ、これをやるということは、委員長のやつで、さっき承認と言うか、みんな認めたわけやもんで、これについて、ステップに沿ってやっていって、ここでこう、どう思うか、議論が大事で、行く前にさ、答えありきの話をしとったら、行かんでもええやないのっていうことを思うんですけど。

○委員長（柴田幸一郎君）

まずは、先生の生の声を聞いてから、次のステップのほうをちょっと。

○３番（熊谷隆男君）

分からんのに、こういうことが原因やと思うのでっていうのなら、これ幾らでもあるわ。通学道路にイノシシが出るで行きたないって子もおるんやから。

○委員長（柴田幸一郎君）

それでは、ウについては、先生の生の声を聞けるように、私のほうがちょっと調整させていただきたいと思っております。

もしかすると、学校に行かなあかんっていう可能性もありますので、よろしくお願いいたします。

次、それではカのほうに入らせていただきたいと思っています。

高齢福祉・介護などであります。

現状の①のことであります。

令和４年と令和５年は、子育て関係の勉強が非常に中心的でありましたので、令和６年は、この高齢福祉・介護などについてを勉強したいと思っています。この高齢者福祉計画、介護保険計画事業の中の26ページですね、では、目的が達成されていないところがあります。この目的が達成されていないのが２－２の健康づくり推進、（２）食生活改善推進と２－３、高齢者の生きがいづくりと社会参加、（６）アクティブメンズ講座、この２つが挙げられております。

それでは、（２）の食生活改善推進は、表であらわしておりますけども、令和元年までは、少しずつと人数が増えていきよるところです。

しかし、令和２年から順番に下がってきて、令和４年は６９名と７割になってしまいました。

また、アクティブメンズ講座、（６）のところなんですが、男性は定年後に何もしない方が多いということで、男性に興味が持つような男の料理教室ですとか、オリンピックで注目されたボッチャ教室なんていうものを開いておるんですが、最低人数が３人以上集まらないと開催できないそうです。

よって、アクティブメンズ講座ができたのは、４回から５回だと。企画を挙げてもなかなかできないよっていうふうに言われております。

また、これだけではなく、ぎふ・すこやか健康診断においても、令和元年までは、ちょっとずつ上がってきたものが、令和２年以降は横ばい傾向であります。

次のページです。

長寿クラブ連合会の会員数も令和３年から少しずつ下がってきていますし、介護予防自主グルー

プについても、横ばい傾向。シルバー人材センターの登録者数も順番に減ってきております。

これらのように、課題というものは、参加者、会員の増加が課題であるというふうに私はとらえております。

このように、皆さんとのふれあいと言うか、つながりというものが薄れてきたというのが一番の問題ではないかと思っております。

次のページ、現状の２になります。

ちょっとこの図１、御覧ください。

高齢者は、今後緩やかに減少傾向になってきております。

しかし、図２を御覧ください。

要介護認定者は、緩やかに増加傾向であります。これは要介護認定率を今後大きく、介護認定率が大きく増加することがここで分かると思っております。

さて、ここの現状の１と現状の２を考えてみると、要介護の段階は、一番初めは何と言っても、皆さんとのつながり、社会参加であると思っております。その社会参加をどうやって増加させるのか、どうやったら会員数や参加者を増やすことができるのかっていうものを皆さんと一緒に考えたいと思っております。

この介護予防保健事業、後期高齢者医療事業、そして国民健康保険事業、この３つの行うイベントは、意外と参加者数が少ないんですが、対処のステップ２のほうに行きます。

その中でも増加している２つの事業をここでは挙げさせていただいております。

表の中にある、ささエール会員とその活動数です。令和３年は39だったのが令和５年では60の見込みとなっていますし、活動数も129から296へと、少しずつ増えていきよるというふうにとらえています。

また、介護予防教室と出前講座は、令和３年が1,127だったのが令和５年では2,300ほどできるだろうというふうに見込まれています。

このように、どんどんどんどん増えていくことはいいことなんですけども、介護予防教室の出席者数と高齢者割合からすると、令和元年では、9.7％の方しか参加しておりませんし、令和４年においては、16.4％の方しかこれらに出てきていません。健康のうちに介護に関する意識が低いと私は思っております。

よって、ステップ２では、ささエール会員の勉強や介護予防講座のことの現状を勉強し、ささエール会員がどうして増加傾向になったのか。２つ目、介護予防講座の参加者は、全体で10％で低いということに対する募集方法の対策方法はどうなのか。３番目に、介護予防の啓発方法をどういうふうに考えているかなどなどについて、高齢福祉課の皆さんからお話を聞きたいなというふうに思っております。

介護予防が今後どんどん増えるということが一番の問題だと思って、その前段階である、つながりを増やすためにはどうしたらいいかっていうのをやっていきたいと思っております。

○委員長（柴田幸一郎君）

熊谷委員。

○３番（熊谷隆男君）

この長寿クラブの登録会員数の下の介護予防のこれって人数やなくて、団体数だよね。

○委員長（柴田幸一郎君）

この介護予防自主グループの団体数です。

○３番（熊谷隆男君）

会員数って書いてあるけども、団体数やな。

○委員長（柴田幸一郎君）

これは、すみません、書き間違えかもしれません。団体数です。

○３番（熊谷隆男君）

そうやね。

それで、もう１つ、こないだ寿大学が始まって、もう減少率が非常に厳しいということと男性の参加率が数％行かないんやないかというぐらい運営があれで、前は教育委員会がやっとったわけやけども、今は変わったわけやよね、未来部に。そうすると、活動が非常に今までどおりのことをやろうとしても、心配もあるし、それから市から金は出てないんやよね。

ただ、使途はあるようなところがあって、運営は公民館のあれがやっとるんやけど、それでかつては、いつも言うんやけども、視察へ行くときに市にバスがあったので、それの貸し出しや提供があったやつが、今はそれもないので、視察行くのにもみんな実費でお金を出して行くというようなことがあって、運営上、非常に先細り感があるわけよ。

もう名前もね、入る人少ないもんで、日吉アカデミーになった。寿大学って挨拶するたんびに注意されて、アカデミーって言いながらやっとるけども、全然、会員、女性はまだあれやけど、男性全然なんよ。ちょっと１回そこもちょっとやっていただきたいなと。

○委員長（柴田幸一郎君）

男性の参加率は、私たちの小田町の高齢者長寿会ですけども、男性の参加率が非常に悪い。女性は比較的みんなで仲よくやって来るのに、男性はどうも弱いですよね。

アクティブメンズ講座っていうのをやっておるんですけど、やっぱりこれもなかなかうまくいかないところがありますよね。

小木曽委員。

○６番（小木曽光佐子君）

今、熊谷委員も言われましたが、長寿会と寿大学、２つあるんですよね。

長寿会っていうのは、どっちかって言うと、ボランティア的なところがあって、寿のほうは、公民館も予算つけて、バスで視察に行ったり、あっち遊びにいったりっていうことをやっているんですよね。

どちらかと言うと、長寿会のほうが危機的な状況であるということと、それからもう１つ、ささエール会員が増えてるっていうことに関してですけど、これは今までここに来ないと資格が取れな

かったんですよね。それを各地域でやれるようにされたんですよ。そのときに、地元で受けられるならっていうことで、受けられたので、増えた原因はそこにあるっていうことは、もう分かってることなんです。１つは。

それと、御存じかと思いますが、コロナでいろんな行事ができなくなって、参加者が減ってきたので、この表の令和３年、令和４年っていうあたりは、ちょっとあんまり当てにならない数字かなということが１つ分かるということと、それ以降に、やっぱりやめられる方が増えてしまったっていうのも原因があるって、そこまでは分かっているので、今後増やすに、長寿会って60歳から入れるんでしたっけ。

だけど60歳ってまだバリバリ現役で働いて、今70歳でも働いてるので、今ひとり暮らしが陶町で200人以上あっても、登録されている人は物すごく少ないんですよ。というのは、まだ元気で働けるからっていう人も多いというのがあって、その辺のところを、元気で働いている人がいるのに、こういう講座に出てこいっていうところも難しいかなっていうのは思うので、分かってる原因のところは調べなくてもいいと思うので、増やすためにはどうしたらいいか。

○３番（熊谷隆男君）

１回、地域によっても違うもんで、どこもまだ調べてみたらどう。もうそら対象とする協議会がなくなっとる。今言われたところはもうみんな消滅してしまったので、ほとんど。

○６番（小木曽光佐子君）

いろんなボランティア団体がなくなってきていますね、今ね。

○委員長（柴田幸一郎君）

柴田委員。

○４番（柴田増三君）

テーマはいいので、その中の細かいことっていうのは、やっていく中で、それぞれまた受け止めて、こんな形というのは出てくるだろうと思うけども、委員長が進められる形の中で、またいろんな課題が出てくりゃ、そこに突っ込んでいきゃあいいかと思っておるので、進めていきゃあいいかと。

○委員長（柴田幸一郎君）

ありがとうございます。

それじゃあ、小木曽委員。

○６番（小木曽光佐子君）

さっきのオの健康増進も同じようなところっていうのを言われていたので、１つ提案していただける、いいなら、さわやか口腔健診が75歳以上なんですよね、今。

若い人は、何か歯垢を取るというのがあるって聞いたんです。高齢福祉課長も、ちょっとそれ分かんないみたいなんですよ。されてて、歯医者さんに聞いたら、何か年に１回。

○３番（熊谷隆男君）

それさ、そのテーマのときに言ってくれたほうが、おれ頭に入りやすいで。

○６番（小木曽光佐子君）

それも含めて、もっと若い段階から歯科健診を入れていくっていうことの提案ができたらいいなっていうのが１つ思うので、この健康増進のところも、高齢者だけじゃなくて、若い人からもそこら辺を取り入れてもらえるようなことも提案できるようになるといいなというのを１つ提案させていただきます。

○委員長（柴田幸一郎君）

１つに入れておきます。

○６番（小木曽光佐子君）

はい、お願いします。

○３番（熊谷隆男君）

もう柴田委員が言われたみたいにさ、もうこれ方針を委員長が言ったら、それ乗っていく上で、これどうやっていう質問で言うと、視察をね、これで行くと、８月、９月になっとるわけやけど、９月は行けないわけやから、８月ぐらいということになるわけやけども、これ逆のこと言って、これ学んでから探しても相手先見つからないとおれ思うんや。要は。

学んでこう、今ので言うと、教育委員会って言うのか、あれと、今の介護のほうのどっちかにしようかなと、視察先を。考えるのであれば、全くマッチしないし、ときが待たないし、これ以前にも、委員長に腹案があって、もう準備しよるよとか、あえて言うことであれば、教えていただきたいということと。

○委員長（柴田幸一郎君）

分かりました。私の思っとることを言いますね。８月ぐらいの初めぐらいに行けれたらいいなと思っています。ここで言う不登校生徒に対するものについては、不登校特区学校が国内に21校あります。そこに行けれたらというふうに思っています。その学校はどこ、一番多いのが東京や大阪や京都が非常に多いんですけども、滋賀にもありますけども、そういうところに行って、最新事例を学びたいというふうに思っています。

それから、もう１個、このカについてなんですが、どこの町においても、介護予防教室っていう名前であったり、介護予防講座っていう名前であったり、どこの町でもってもそういうところをやっております。だから、特区のある学校の勉強のついでにこれも学べれたらというふうな思いがあります。

○３番（熊谷隆男君）

まずある程度、自分で案があれば、進めてもらって、ただ何でこれ気にするかって言うと、本当に間際では相手がしませんよ。断られることもあるし、早いもん順のようなところがあるので、うかうかしとると、それが理由で、どこも当たったけど、駄目でしたっていうことはないようにしてほしいということだけ。

○委員長（柴田幸一郎君）

それじゃあ、もうこの会議が終わったら早速でもやらさせて。

○６番（小木曽光佐子君）

先に視察のほうをやってもらって、それが落ちついたら、近場のところの話を聞くっていうのもいいと思うけどね。

○委員長（柴田幸一郎君）

ありがとうございます。

○６番（小木曽光佐子君）

御苦労ですけど、お願いします。

○３番（熊谷隆男君）

もう今どこもね、受け入れてくれんとこが多くなったんや。受け入れるにしても、自分とこで泊まらな受け入れられんとかね、条件つくとこがある。

○委員長（柴田幸一郎君）

どうぞ、成瀬委員。

○２番（成瀬徳夫君）

高齢者のことに関してなんですけど、私も今年の６月にもう後期高齢者に入るんだけど、団塊世代の最終なんですよ。だから団塊世代がだっと高齢者になってきているんで、要介護増えるんが当たり前なんですよ。だからその辺を皆さんの頭の中にちょっと片隅に置いといてもらうと、この視察というのは頭に浮かんでいいかなと。

○３番（熊谷隆男君）

もうね、老々介護や。70歳の人に69歳の人がお茶出しよるような話や。

○委員長（柴田幸一郎君）

皆さん、これで私のほうの提案は終わらせていただき、皆さんの御意見もこれでいっぱい言われてたかなというふうに思っております。

そして、この委員会が今これで終わったとしたら、早速取りかかりたいと思っております。

熊谷委員。

○３番（熊谷隆男君）

今テーマもいただいたし、予定も大体言われたけども、これ委員会自体は開催の日程っていうものは、議会日程も出とるわけやけど、普通の委員会、議会開催中のときの委員会の終わった後にやることは目に浮かぶとこやけど、ほかのところはどういうような運営を。

○委員長（柴田幸一郎君）

ほかのところ。

○３番（熊谷隆男君）

要は、この５月に入って、まだ議会前やけども、あなたが今日早速に視察を決めたと。そしたら視察の報告を早くまた５月に委員会を開いて、視察先が決まりましたっていうのに、こうやって寄せるのか、それぐらいの程度なら、連絡であれなのか、委員会でなり立てるのか、報告、連絡会で全協が終わった後にちょっと寄ってくださいで済ませるのか、ほんでさっき出た意見を聞くような

議論は、委員会としては議会開催中やないところで開催してやっていくのか、その辺のところもちょこっとスケジュール的なものを頭入れさせてもらうとありがたいなと。

○委員長（柴田幸一郎君）

まず、こういう現状の把握の日数やらこういうことをやりますよっていうのは、ある意味、棚のところに入れときゃええかなと思っています。これが行って、もしかして大きな、皆さんと共通的な意識があるならば、勉強会に行ってあるならば、こういうふうな議論の場を設けたいと思っています。

でも、あそこに行って、このメンバーですので、いろいろ喋りながら視察をやっているので、そのときの皆さんの御意見を私が聴取して、１つにまとめたやつをまた棚の中に入れていって、次のよその市の視察に行ってもええかなというふうに思っています。

どうぞ。

○３番（熊谷隆男君）

これ自分もできないんだと言うんやけど、委員会やって視察行く、議論を見に行って、それで報告書出してくださいよっていう経緯を、こないだ辻議会改革委員長にも言ったんやけども、要は何かをやったらその後それについてどうかが大切で、何々を見に行きましたって言って、報告書書いてくださいとか、あれでは、どういうことやったのかってなるので、委員長考えてみえるので、やられることが視察でも、それから講習を受けるにしても、研修を受けるにしても、その後それについて議論しないと、何も導き出されるものがないので、始まる前にそれを、だから日程的には、何かをやったらそれについてを。行く前に話をしても想像になっちゃうので。

○委員長（柴田幸一郎君）

ありがとうございます。

○６番（小木曽光佐子君）

報告書って昔、市で提案できることっていうの、ついていますよね。書くように。

○３番（熊谷隆男君）

もう書いたら終わりでさ、あれ誰が見るのって言ったら、誰も見ないんやから。

そやから、見せてどうというほどのね、これはないかもしれんけど、みんなでこう、ちょっと情報共有するには、あとの会議のほうが大事かなと。

○６番（小木曽光佐子君）

今度は提案をしていくっていうことだよね。

○委員長（柴田幸一郎君）

そうです。理想というふうに言わせてもらっていいですか。

そのほか御意見がなければ、それではその他に入らせていただきますが、その他で何か御意見のある方は。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（柴田幸一郎君）

それでは、御意見がないので、これをもって本委員会を終わらさせていただきます。

本日は、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

午前９時39分　閉会